

日本の伝統文化 五節句を学ぼう 「重陽の節句フラワーアレンジメント体験授業」

作成者：特定非営利活動法人フワークラブなな夢 村上 博子

■ 実施主体

名称：特定非営利活動法人フワークラブなな夢

担当窓口：村上 博子

所在地：神奈川県横浜市青葉区



■ 取組地域 横浜市・川崎市を中心に活動

神奈川県立相模原養護学校

■ 概要

日本に古くから伝わる行事の多くは、季節の花や植物とも関わりが深い。1年の中で重要な五つの節句について学ぶと共に、実施時期の10月にちなんで、キクの節句と言われる「重陽の節句」で使われるキクを題材にして、フラワーアレンジメントを体験してもらうこととした。私たちの考える「花育」とは、花や緑に親しみ、育てる機会を通して「思いやり」「やさしさ」「命の大切さ」を感じる心を育む活動である。

■ 取組開始時期・経緯

神奈川県花き・植木振興地域協議会からの依頼により、神奈川県立相模原養護学校 高等部1年生に花育授業を指導することとなった。

2016年 8月 ・学校との打ち合わせを実施

・五節句の一つ、重陽の節句をテーマとした花育を実施することが決まった

2016年10月 ・花育授業を実施

特定非営利活動法人フワークラブなな夢は、2008年に活動を開始して神奈川県横浜市・川崎市を中心に花育活動を行っており、2015年2月にNPO法人として設立。

2016年度で活動開始から8年目を迎えた。

■ 目的（目標）

「花育」で目指す“7つの育み”

- ①「感謝」する気持ちを育む。
- ②「思いやり」を育む。
- ③「想像力」を育む。
- ④「コミュニケーション」を育む。
- ⑤「達成感」を育む。
- ⑥「自信」を育む。
- ⑦「夢」を育む。

【取り組み内容】

- 対象者・人数：高等部1年生 30名（4クラス合同）
- 教 科：美術
- 所 要 時 間：120分
- 対 象 場 所：神奈川県立相模原養護学校
- 指導者・アシスタント人数：美術の先生1名・指導者（なな夢スタッフ）2名・アシスタント14名

<重陽の節句フラワーアレンジメント体験授業>

■ 資材

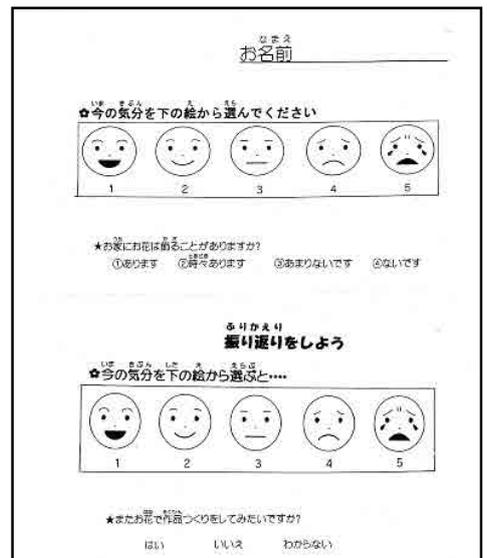
- ・五節句についての説明（スライド用）
- ・ワークシート（生徒に配布）
- ・基準紙（生徒に配布）
- ・花器
- ・吸水性スポンジ
- ・リボン+針金のセットした物
- ・持ち帰り用の袋
- ・アンケート
- ・フェイススケール※
- ・ハサミ・えんぴつ・消しゴム

※フェイススケールとは

自分の現在の気持ちを、「笑った顔」「泣き顔」などを5～6段階の表情の変化で表したスケールで、花育の実施前と後に、生徒達に自分の気持ちに近いものを選んでもらい花育を始める前の気持ちと実施後の気持ちがどのように変化していくのかを測定するのに活用している。

■ 花材

- ・ 輪ギク 1本
- ・ 小ギク（黄色） 2本
- ・ スプレーギク（ピンク） 2本
- ・ 小ギク（白） 2本
- ・ ベアグラス 3本（希望者のみ）
- ・ 月桂樹
- ・ アイビー



フェイススケール



フラワーアレンジメントに使用する色々な種類のキク

■ 活動内容（指導内容）

1部：美術の先生による座学

日本の伝統文化である五節句について学び、特にその中の「キクの節句」について学ぶ。
（神奈川県立相模原養護学校の美術の先生が説明）

1. 今日の授業の流れを説明

これから何をするのか、不安にならないようにするために授業の流れを書いた紙を黒板に貼りながら説明をする。

説明が終わったら黒板に貼ってある紙を1つずつ取っていく。

（紙を黒板から取ることで、今どこまで進んでいるのか把握できる）

- ①はじめの挨拶。
- ②説明を聞く。
- ③フェイススケールに今の気持ちを書く。
- ④「五節句について」の説明資料を見てワークシートに記入する。

（字の書けない生徒は紙を張る）

- ⑤花のアレンジメントの説明。
スライドを見ながら作り方の流れを説明
（休憩）

- ⑥花をアレンジ。
スライドを見ながら、花を切って吸水性スポンジに挿すことを伝える。
リボンをつけて完成。

- ⑦（フェイススケールにいまの気持ちを）書く。
- ⑧掃除
- ⑨おわりのあいさつ



授業の流れを書いた紙を黒板に貼りながら説明

2. 「フラワーアレンジメント」と「五節句」について説明（スライドを使用して説明する） （神奈川県立相模原養護学校の美術の先生が説明）

- ①普段、花に接することが全くない生徒がいるので、フラワーアレンジメントとはどういうものかの説明。



「生活の中でお花を楽しみたいですね。
今日は、NPO法人フラワークラブなな夢さんが、
フラワーアレンジメントを教えてください」

②五節句についての説明。

「五節句とは聞いたことありますか？難しい名前ですが
みんなが知っている行事です。

中国の考え方からできた、日本の季節の行事です」



<五節句（ごせっく）>

1月7日 ^{じんじつ} 人日の節句・七草がゆの節句



七種類の野草や草花をおかゆに入れて食べ、無病息災を祈りました。

3月3日 ^{じょうし} 上巳の節句・桃の節句



桃が咲く時期と重なることから「桃の節句」とも言われ、女の子の健やかな成長を願う節句でお雛様を飾ります。

5月5日 ^{たんご} 端午の節句・^{しょうぶ} 菖蒲の節句



子供の日です。子供の健やかな成長を祈り、鯉のぼりを上げたり、柏餅を食べたりします。古くから柏の木には神が宿るとされてきました。

7月7日 ^{たなばた} 七夕の節句



織姫と彦星が年に1度会うというお話を聞いたことがあるかもしれませんね。

9月9日 ^{ちようよう} 重陽の節句・キクの節句



「昔の人はキクの花を楽しみました。」

「昔は9月9日でしたが、今のカレンダーでは10月20日ごろになります。今日は10月12日ですので、あと少しで重陽の節句のタイミングですね。」



着せ綿とは

「夜、キクの花の上に色を付けた綿を乗せて、朝、夜露でキクの香りの移った綿で元気で長生きができるようにと顔や体をふきました。」

※指導者が、実際にキクの上に綿を乗せた状態と、綿で顔を拭くことを実演して生徒達に見せた。



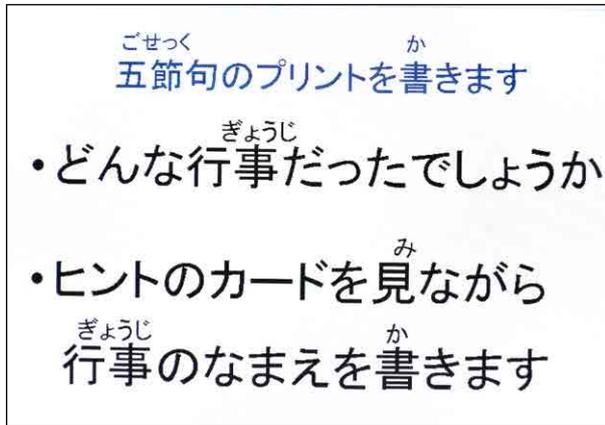
着せ綿をイメージしたお菓子



「お酒にキクの香りに移して飲みました。」

「着せ綿に見たてたお菓子もあります。食べてみたいですね。」

④五節句について説明をした後、生徒にワークシートを記入してもらう。



いつ	行事のなまえ	どんなことをするのか	関係のある植物
1月7日	ななくさ 七草がゆ	しゆらい やさい 7種類の野菜を入れたおかゆを食べて元気にすごす	はる ななくさ 春の七草
3月3日		ひなまつり お雛様と桃の花を飾る	もも 桃の花
5月5日		しょうぶ湯にはいる	しょうぶ かしか 菖蒲、柏の葉 よもぎ
7月7日		たなばた 七夕飾りをして星をながめる	たなばた 笹の葉
9月9日	もようよ 重陽の節句	きく は 菊の花にわたをのせて朝露を採るふくと長生きする	もようよ 菊の花

答えは各机の上であり、それを見て書いたり、文字の書けない生徒はシールを貼ったりした。

3. 休憩15分

2部：キクのフラワーアレンジメント

指導：NPO法人フラワークラブなな夢

4. 後半は実際にキクを使ってフラワーアレンジメント作成

- ・あいさつ、何を作るのかを説明。
「こんにちは。今日は秋のお花、キクを使ってアレンジメントを作りたいと思います。」

自己紹介

- ・「私たちはNPO法人フラワークラブなな夢からきました。」
- ・「私たちの考える「花育」とは花や緑に親しみ、育てる機会を通して、「思いやり」や「やさしさ」や「命の大切さ」を感じる心を育む活動です。」





これを作ります

何を作るのか具体的に目に見える形で説明。
「今日は、このキクのアレンジメントを作ります」

①大きなキクをカットします



ゆび 2本のながさ

机の上にあるバケツから大きなキク（輪キク）を1本ずつ取ってもらい、一緒に切る。
「指の幅2本分の長さで切ります。」

②小さなキクもぜんぶカットします



ゆび 2本のながさ

小さなキク（小ギク・スプレーギク）も全部カット。「指の幅2本分の長さで切ります。」机の上に吸水性スポンジの入っている茶色の器を確認。

③オアシスにさします



机の上に吸水性スポンジの入っている茶色の器を確認。

④まわりに葉をさす



使用する月桂樹、キクの葉は、美術の先生の自宅で栽培したものも使用した。
デザインを考えて生けていく。
スライドを見ながら一緒に作成。

⑤まんなかに大きなキクをさす



「大きなキクを真ん中に挿します」
キクは必ずしも真ん中に挿さなくても良いことを伝える。

⑥まわりに 小さいキクをさす



小さいキクを全部入れる。
スライドと違っていても良いと伝える。

⑦小さいキクをさす



斜めのデザイン。

⑧まわりを うめていく



大きなキクの周りから小ギクを埋めていくデザイン。

⑨リボンをつける



最後までできた生徒に手を挙げてもらい、一人ずつ作品を確認。
「とってもよくできました」
「キクを端にデザインしたの？ 凄いアイデアですね」などの声を必ずかける。
出来上がった生徒にリボンを渡す。

⑩フラワーアレンジメント作品



完成したフラワーアレンジメント作品
(ベアグラスは、希望する生徒に配布)

⑪てさげ袋にいれる



持ち帰り用の手提げ袋を受け取り作品を入れる。



手提げ袋の側面に、自分の名前シールを貼って完成。

時間をかけて、とても丁寧に作っている生徒もいた。

「大丈夫、時間はあるからゆっくり作ろうね。」と声をかけた。



感想を聞いて終了。

「今日は楽しかったですか？」

大勢の児童が手を挙げてくれた。

美術室を掃除して終了

■ 指導のポイント

- ・説明をする時は、言葉と合わせて目で見えてわかるような説明資料を用意。
- ・漢字が読めない生徒や、いままで花を扱ったことのない生徒も大勢いるとのことで、学校の美術の先生（里井先生）が生徒がわかりやすいようにと五節句についての資料とワークシートを用意した。

■ 児童・生徒に関心を持ってもらえるように工夫している点

- ・事前に教師から、興味が無くなったら、何人かは教室から出て行ってしまいかもしれないと聞いていたが、スライドなどを使ってわかりやすく説明を行ったので、立ち歩いたり、教室を出ていく生徒はいなかった。
- ・説明資料は、写真を多く用意。説明は順を追って短くゆっくりした口調で話し、作品づくりは生徒と一緒にいった。
- ・学びたいという気持ちが継続できるように、指導者から生徒に質問をしたり興味を持ってもらえるように工夫した。
- ・事前に美術の里井先生と、生徒達が作りやすいデザインを考案したり、話の進め方、順番などを綿密に打ち合わせした。
- ・簡単だと飽きてしまう。難しいと投げ出してしまう。少しだけ難しい内容には興味をもって取り組むことが分かった。

■ 経費

1人当たり花材費・資材費 約1035円（花は市場での購入金額）

（花材費・資材費・諸謝金などは、「神奈川県花き・植木地域振興協議会の補助金」で行われた。）

■ アンケート

フェイススケールによる実施前と後の気持ちの変化の測定 (生徒27名)

	とてもニコニコ	ニコニコ	普通	悲しい	とても悲しい
実施前	7	9	6	1	4
実施後	16	6	3	0	2

生徒の中には、花は好きにはなれないと思う生徒がいたかもしれないが、結果は概ね気持ちが上昇していたと思う。実施後には「とてもニコニコ」であると回答した生徒が開始前に比べて二倍以上になり、大多数を占めた。

■ 参加者からの感想

<先生方からの感想>

- ・自分で生けた素敵なお花を持ちかえることが出来て幸せ。
- ・作業の内容もわかりやすく、生徒たちも主体的に活動することができた。良い体験ができた。
- ・「楽しかった」という言葉をたくさん聞くことができた。
- ・誰にでもできて、創意工夫ができるところがよい。セラピーとしても有効。
- ・とても生き活きして楽しそうに取り組んでいた。機会があればまたお願いしたい。
- ・生徒が興味津々に取り組んでおり、満足できた様子がかがえた。
- ・作品完成後、友達や教員に自分の作品を見せている場面があり、良い機会だなと感じた。
- ・神奈川でどのような花材が生産されているかを学び、それを使ってアレンジを作るのも良い。
- ・生きている花・植物を扱うことで、心が癒されていくのだと思う。

■ 今後の課題

- ・1度だけの体験ではなく、季節ごとに数回取り組みたい。
- ・どこの学校も金銭的に厳しいのが現状で、費用面の負担が課題。
- ・花育の実施時間は、1~2時間程度だが、そのための準備は膨大なものになる。
- ・事前の作業はどこの団体でも同じだと思うので、どのような工夫をしているのか他団体との情報交換なども行っていきたい。
- ・安全面の問題

「万が一事故にあった場合の補償（校内外）はどうするのか」

（花育に参加した児童・保護者・先生・講師・ボランティアのスタッフを含む）

イベント保険などの加入などを事前に確認しておく必要がある。

- ・学校で花育を実施するためには、学校・保護者に理解をしてもらうことが大切。一度、花育を行った学校や団体からは、また取り組みたいという意見が多いので、体験することで花や植物への理解が深まり、関心を持ってもらえたと確信している。